

## 編集 後記

寒さの中にも春の気配が感じられる頃となりました。私の勤めるキャンパスでも卒業式を迎え、晴れ着姿の学生たちが花束を手に写真を撮り合う光景に、季節の節目を実感します。年度末を迎え、進学や就職、異動など新たな環境への準備に追われている方も多いのではないのでしょうか。日常の小さな変化の積み重ねが社会全体の動きと重なり合うこの時期、私たちの生活と健康、そして公衆衛生との結びつきを改めて意識させられます。

本号(第73巻第3号)では、総説1編、原著3編、資料2編の計6編を掲載しており、多岐にわたるテーマで構成されています。井上らの論文は、日本国内におけるCOVID-19下水サーベイランスのエラー要因と継続的実用性について検討したレビューです。下水サーベイランスが、感染症監視の新たな手法として、その可能性と限界を冷静に見極める重要性を教えてください。Yakushijiらは、Treatment Satisfaction Questionnaire for Medication (TSQM) 日本語版の妥当性・信頼性を検証しました。患者の治療満足度は治療継続や服薬遵守と密接に関わる指標であり、臨床と公衆衛生の双方に示唆を与えるものです。加藤らの研究は、地域在住の労働力世代を対象に、夕食開始時刻の規則性および就床時刻までの経過時間と主観的睡眠の質との関連を明らかにしました。個人レベルの行動変容支援の重要性を再認識させられる内容となっています。村山らは、同居者がいるにもかかわらず交流が乏しい「家庭内孤立」に着目し、中高年者の精神的健康との関連を検討しました。家庭は安定した支援基盤であるという従来の前提に一石を投じ、家庭外のみならず家庭内の人間関係にも目を向ける必要性を示唆しています。茂木らの論文は、日本における公衆衛生看護の介入技術を体系化し、Intervention Wheelという米国のモデルを参照しつつ日本独自の特徴を整理したものです。公衆衛生看護実践の可視化と共通言語化は、教育・実務・研究を横断する基盤となり得る重要な試みです。三浦らは、小児慢性特定疾病から指定難病への制度移行支援について、行政担当者の認識を明らかにしました。制度移行が円滑に進まない実態や、移行期

### 次号予告 (第73巻・第4号)

#### 原著

クラスター分析による高齢者の就労ニーズの類型化：和光コホート研究……野藤 悠，他  
労働者の健康に関連する生活の質とメタボリックシンドロームおよび生活習慣との関連

……加藤佳子，他  
PHR サービスの利用に関わる因子と利用の効果に関するアンブレラレビュー……射場在紗，他  
同一の健康保険組合に属する従業員の勤務形態と生活習慣との関連……池田有吾，他

#### 公衆衛生活動報告

実用的な疾病予防・健康づくりサービス導入時のチェックリスト開発：アクションリサーチに基づく合意形成プロセス……助友裕子，他  
栄養バランスに配慮した食事の提供と選択に関連する要因の検討：地域飲食店におけるナッジを活用した介入研究……千葉由美子，他

#### 資料

都道府県における健康増進アプリの導入の実態……吉岡みずき，他

医療支援センターの設置状況による差異が示されるなど、その実態を浮き彫りにしています。

これらの論文は、感染症対策から医療、生活習慣、メンタルヘルス、専門職の技術体系、制度運用に至るまで、公衆衛生の広がりを変えて実感させます。そして共通しているのは、「目の前の困りごと」を、本人の問題に閉じずに、社会の仕組みとして捉え直す姿勢です。

最後に、本誌では原著、総説、資料、公衆衛生活動報告など、多様な形式の投稿を歓迎しております。保健所、自治体、学校、職域、医療現場——どの場所にも「うまくいった工夫」や「うまくいかなかった経験」、そして次につながる問いがあります。現場の疑問を、ぜひ研究や報告として本誌にお寄せください。皆様からの積極的なご投稿を心よりお待ちしております。

(石丸知宏)